審査の結果の要旨

論文提出者氏名　　朴　炳順

本論文「東京における木造アパートの発生及び建築的特徴の変遷に関する研究」は、日本独特の都市居住形態である木造アパートについて、その東京における発生を明らかにするとともに，発生から約 100 年間の建築的特徴の変遷を明らかにしたもので、６つの章から成る。

第 1 章では、既往研究及び用語の定義について述べた後、研究の目的を木造アパートの発生過程の解明，発生から約 100 年間に至る木造アパートの建築的特徴の明確化，また建築的特徴の変遷の正確な記述の三点とすることを述べている。

第２章「木造アパートの発生」では、広範な文献調査によって、東京における木造アパートの起源が木賃宿の変形として明治 35 年に発生した共同長屋であることを指摘し、初期の共同長屋の建築的な特徴とその普及の要因を明らかにしている。

第３章「昭和初期木造アパートの建築的特徴」では、昭和 11 年から昭和 14 年の間に建築され東京都内に現存する複数の木造アパートの現地調査及び図面分析により昭和 10 年代に建築された木造アパートの建築的特徴を明らかにしている。具体的には、玄関の構え方が洋風であること、管理人室が存在すること、中廊下型の平面構成をもつこと、少なくとも１階廊下までは下足での歩行を前提としていること等をこの時代の木造アパートに共通する特徴として指摘した上で、貸室の規模、付帯設備の状況、工期、各部仕様、各部寸法の内容を明らかにしている。

第４章「木造アパートの建築的特徴の変遷」では、東京都世田谷区南烏山４、６丁目地区を調査対象地区として選定した上で、その地区に建つ木造アパートの全数について現地調査と補足的な資料調査を行い、建築時期別の建築的特徴の差異を明らかにしている。具体的には、設備状況、屋根の形状及び仕上材料、外壁材料、外部建具の材料及び意匠、階段及びベランダの形式のそれぞれに建築時期による差異が存在することを明らかにし、木造アパートの建築的特徴を識別することによってその建築時期が判断できることを示している。

第５章「プレハブアパートの建築的特徴」においては、1980 年代から供給され始めた構造の異なるアパート、プレハブ構法によるアパート商品の建築的特徴の

変遷をまとめている。具体的には、前章と同じ地区に建つプレハブアパートの建築的特徴の分析と生産者に対する聞き取り調査等から、外観上の意匠の変容過程、付帯設備の仕様向上の過程等を明らかにし、木造アパートに対する影響について考察を加えている。そして、現在では両者の間に外見上の差がほとんど見られなくなったことを指摘している。

第６章「まとめ」では，以上各章で明らかになった内容をまとめ、結論としている。

以上、本論文は、長い間にわたって大きな役割を担ってきたにもかかわらず研究対象となることの少なかった木造アパートについて、豊富な文献・資料調査や詳細な現地調査、聞き取り調査によって、その発生の経緯及び建築的特徴の変遷を明らかにしたものであり、建築学の発展に寄与するところは大きい。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。